

ワールドキャンパスインターナショナル
2008 年度夏季プログラム
概要報告



<目 次>

1．2008年“夏季”プログラムの全体概要	
(1) 全体スケジュール	1
(2) 参加者	1
2．各都市別の活動概要	
(1) 長野県上田市	2
(2) 東京都多摩市	3
(3) 茨城県取手市	5
(4) 茨城県水戸市	7
(5) 広島県広島市	8
3．ホストファミリーアンケートの結果概要	
(1) 基本情報	10
(2) 結果概要	10

参考資料

- ・ 参加者リスト
- ・ 地域実行委員会（代表）リスト
- ・ スタッフリスト
- ・ 協力企業・団体等

1. 2008年“夏季”プログラムの全体概要

(1)全体スケジュール

- ・ 昨年度の実績・課題を踏まえた上で、今後のより効果・効率の高いプログラム実施を目指し、今年度のプログラムは春季と夏季の2回とした。
- ・ 2回のプログラム実施に伴い、夏季は1.5ヶ月で5都市を訪問することとして、より多くの学生が参加しやすいように期間も2分割した。なお、これに伴い、1都市での滞在期間は昨年度よりも長くなっている。
- ・ また、全体の短期化に伴い、参加者間のチームビルディングを目的として、オリエンテーションの前半を合宿形式とした。

第1セッション：

長野県上田市（6月23日～7月6日、14日間） オリエンテーション含む
東京都多摩市（7月7日～7月16日、10日間）

第2セッション：

茨城県取手市（7月17日～7月27日、11日間）
茨城県水戸市（7月28日～8月2日、6日間）
広島県広島市（8月4日～8月10日、7日間）

(2)参加者

- ・ 計12カ国から22人(第1セッション16人、第2セッション19人)が参加した。
- ・ 出身国は、アメリカ、ブラジル、カナダ、中国、デンマーク、フィンランド、インドネシア、日本、ケニア、スイス、トルコ、ウズベキスタン(スタッフにはノルウェー、メキシコが含まれる)。
- ・ リクルーティングは、担当ジェネラルマネジャーによる欧米でのプレゼンテーション・説明会のほか、世界各国のボランティアネットワーク(20名以上)による募集を行った。
- ・ なお、アメリカ、インドネシア、スイスなどは過去の参加者による口コミのほか、ウズベキスタンは引き続き、HPを通じた情報入手をきっかけとして参加している。
- ・ 日本人参加者は、昨年に引き続き、名古屋外国語大学からの参加に加え、ホームステイ先の子女の応募により、合計2名が参加した。
- ・ 書類審査および電話、スカイプ等による直接のインタビューにおいて、昨年の課題を踏まえ、参加者各自の目的意識を十分に確認した上、WCIの目的の共有に力を入れた結果、春季と同様、意識の高い参加者の参加を得ることができ、各地で評価を頂いた。
- ・ これまで同様、平均年齢は20代前半だが(春季よりもやや若い)、年齢の上限を設けていないため、17歳から50歳までの幅広い年齢層からの参加が得られた。

2. 各都市別の活動概要

(1) 長野県上田市

スケジュール

日付	概要
6月23日(月)	成田空港集合 (合宿)
24日(火)	オリエンテーション (＃)
25日(水)	休日 (＃)
26日(木)	オリエンテーション、地域施設訪問、ホテル祭り (＃)
27日(金)	オリエンテーション、対面式(ホストへ)
28日(土)	オリエンテーション
29日(日)	ホストファミリーデー
30日(月)	ホクト(株)見学、太郎山ハイキング(全市展望)
7月1日(火)	農産物直売所見学(レクチャー、おやき作り体験)、長野大学(学食体験、ディスカッション)
2日(水)	そば打ち・農作業体験
3日(木)	休日
4日(金)	イベントリハーサル
5日(土)	ありがとうイベント
6日(日)	ホストファミリーデー
7日(月)	多摩市へ移動

ハイライト

テーマ：「農業と食育」

日本の農業のさまざまな側面を見るために、農家での農業体験に加え、先進技術で大量に生産するきのこ工場や流通経路として拡大しつつある生産者による農産物の直売所などの見学を行った。また、長野大学での学生とのディスカッションなどを通じて、食べ物と社会のあり方、食料自給などについて考えた。

- ・ 初めての地域住民との直接の交流となった高齢者施設や障害者施設、中学校への訪問・交流は多くの参加者にとって印象的で感動的なものとなった。
- ・ 第1番目の都市として、滞在期間の約半分はWCIのプログラム及び日本での生活・文化に関するオリエンテーションを行うと同時に、今回はチームビルディングを目的とした合宿形式を導入した。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 福祉施設訪問、学校訪問
- ・ そば打ち、農作業体験
- ・ 太郎山ハイキング

<感じたこと> (一部)

- ・ 穏やかな気候と豊かな自然、おいしい食べ物(もっと観光に活かせないか?)
- ・ 実行委員会を含め、地域の皆さんのホスピタリティと明るくオープンな性格(毎日美味しい昼食をありがとうございました)
- ・ インターネットがつながれば・・・

(2)東京都多摩市

スケジュール

日付	概要
7月 7日(月)	移動(上田市)
8日(火)	多摩ツアー(レクチャー、街歩き:2コース)
9日(水)	東京メトロポリタンツアー(5コース)
10日(木)	小学校体験
11日(金)	休日
12日(土)	半休、英語劇参加

13日(日)	ホストファミリーデー
14日(月)	幼稚園訪問、ありがとうイベント
15日(火)	環境セミナー・ディスカッション、中高年世代との交流会
16日(水)	障害者施設体験、市長表敬訪問
17日(木)	取手市へ移動

ハイライト

テーマ：「東京再発見」

東京を立体的に捉えるため、まず多摩の成り立ちや特徴を地元住民とともに確認した上で、農業が主体の上田市やベッドタウンとしての多摩市と比較しながら、多様な住民との交流を交え、大都市東京の暮らしについて考えた。なお、昨年引き続き、多摩および東京ツアーは中央大学などの周辺大学の学生約20名の協力を得てグループに分かれて実施した。

- ・ 小学校では、2名1組で各クラスに入り、1時間は教師体験、1時間は小学生体験を行い、中高年世代との交流会ではさまざまな日本文化の体験が得られた。いずれも、東寺方小学校の職員・児童の皆さん、多摩市国際交流センターの外国語セミナーの皆さんの主体的なご協力により実現した。
- ・ 環境セミナーも、前回ホストファミリーをして下さった方の発案・企画であり、上記のプログラムと併せて、地域ネットワークの拡大や地域力の向上が見られる。「およげ！たいやきくん」の作曲家佐瀬寿一氏をはじめとするチャイルドオアシスプロジェクトの皆さんのご協力により、テーマソング「KIZZUNA」が完成！



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 多摩・東京ツアー
- ・ 小学校体験
- ・ 障害者施設体験

<感じたこと> (一部)

- ・ 高齢者の力をもっと活用できるように
- ・ 充実した企画、実行委員会のハードワークに感謝！
- ・ 中高年世代の方たちとのポットラックパーティは楽しく、美味しかったです！



(3)茨城県取手市

スケジュール

日付	概要
7月17日(木)	移動(多摩市)
18日(金)	取手紹介(+第2セッション参加者オリエンテーション)
19日(土)	アートめぐり、“100年のれん”企業訪問
20日(日)	凧作り“真夏の凧揚げ大会”(ホストファミリー交流、ポットラックパーティ)
21日(月)	休日(祝日)
22日(火)	日本文化教室
23日(水)	キャノン見学、WCIフェア準備
24日(木)	WCIフェア(各国プレゼン)、ふくろうバザール参加
25日(金)	つくば宇宙センター、サイエンススクエア見学
26日(土)	ありがとうイベント
27日(日)	ホストファミリーデー
28日(月)	水戸市へ移動

ハイライト

テーマ：「文化とまちづくり」

100年以上続く老舗企業の見学や街中のアート巡りなどに加え、福祉や環境などの分野の活発な市民・コミュニティ活動などを通じて、魅力あるまちづくりについて実行委員会とともに考えた。

- ・ 例年、正月に行われ市の名物になっている川原での凧揚げをホストファミリーとの交流に位置づけて実施したところ、ホストファミリー同士の交流のきっかけにもなり、大変好評だった。また、ふくろうバザールと同時に、各国ブースを設置するWCIフェアを開き、子どもたちに各国の文化紹介などを行った。

- ・ ハイテク技術の結晶のイメージがあるキャノン社の製造工程が、数年前から人の力を最大限に生かした仕組みを導入していることは参加者にとって興味深い事実だった。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 日本文化体験
- ・ 凧作り・凧揚げ
- ・ 市民・コミュニティ活動体験

<感じたこと> (一部)

- ・ 街の雰囲気もう少し開放的になるといいのに・・・変化への積極的なアクションを
- ・ 東京に近い立地と閑静な生活環境、活発なコミュニティ活動
- ・ 地域の企業がもっと地域とコラボレーションしてはどうか

(4)茨城県水戸市

スケジュール

日付	概要
7月28日(月)	移動(取手市) ウェルカムパーティ
29日(火)	県警・県庁ツアー、県知事表敬訪問
30日(水)	原子力発電関連施設ツアー
31日(木)	休日(花火大会)
8月1日(金)	ホストファミリーデー
2日(土)	水戸黄門祭り参加、ありがとうイベント、グッバイパーティ
3日(日)	広島市へ移動(名古屋にて一泊)

ハイライト

テーマ:「資源と環境」

東海村の原子力発電所関連の複数施設を周り、原子力開発の歴史や原子力発電の仕組みなどの基本的な知識を得るとともに、原子力活用のあり方についてそれぞれの意見を交換した。

- ・ 休日ではあったが、仙波湖の花火大会をホストファミリーと楽しめるアレンジができ、また、水戸で最も人出のある夏祭りに参加し、山車を引くこともできたことは参加者にとって大変貴重な文化体験となった。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 水戸黄門祭り
- ・ 原子力発電関連施設見学

<感じたこと> (一部)

- ・ 歴史や豊かさを感じた、都会的な生活と海や緑などの自然の共存
- ・ 専門的な説明の場合、通訳に少し配慮が必要では

(5) 広島県広島市

スケジュール

日付	概要
8月 4日(月)	移動(名古屋経由 水戸市)
5日(火)	語り部、資料館見学、ディスカッション
6日(水)	平和記念式典、宮島、灯籠流し
7日(木)	水道局
8日(金)	まとめ、ありがとうイベント
9日(土)	ホストファミリーデー
10日(日)	まとめ、卒業パーティ
11日(月)	関西空港出発

ハイライト

テーマ:「平和」

原爆の語り部の生きた証言や資料館の展示などは参加者にとっては衝撃的であり、平和に関する意見交換にも熱が入った。また、実際に平和記念式典に参列し、灯籠流しを見るという機会は日本人にとっても一般的な体験ではなく、参加者の感動は大きかった。

- ・ 世界遺産である宮島への観光は日本の伝統や美意識を確認する良い機会となり、水道局での説明と併せて、原爆の街というイメージとはまた別の“水の都”としての広島的一面を見ることができた。





参加者の感想

<最も心に残った活動>

- 語り部のお話、平和に関するディスカッション、平和記念式典
- 水に関するディスカッション

<感じたこと> (一部)

- 市民に対する水と環境に関する情報提供に期待
- 滞在が短かったので、原爆以外のことがあまりわからず、少し残念。。



3. ホストファミリーアンケートの結果概要

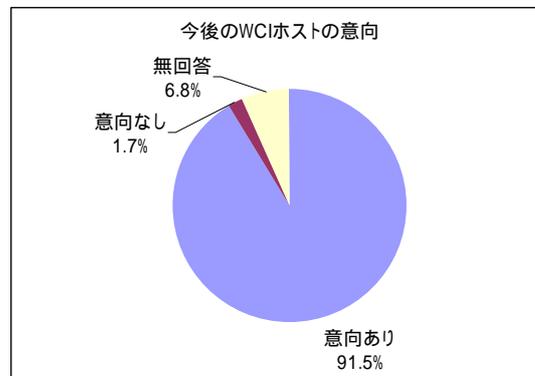
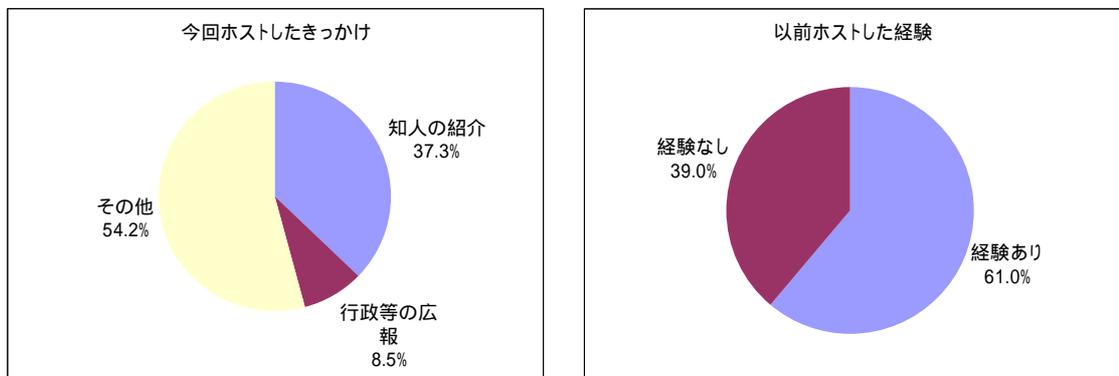
(1) 基本情報

今年度から各地域でホストファミリーの皆さんにアンケートへの協力を頂いているが、以下の内容は夏季プログラムのみのものである。また、記述式の設問に対する回答もごく一部を抜粋した概要である。最終的な結果は春季プログラムと併せて、2008年度の事業報告書として取りまとめるものとする。

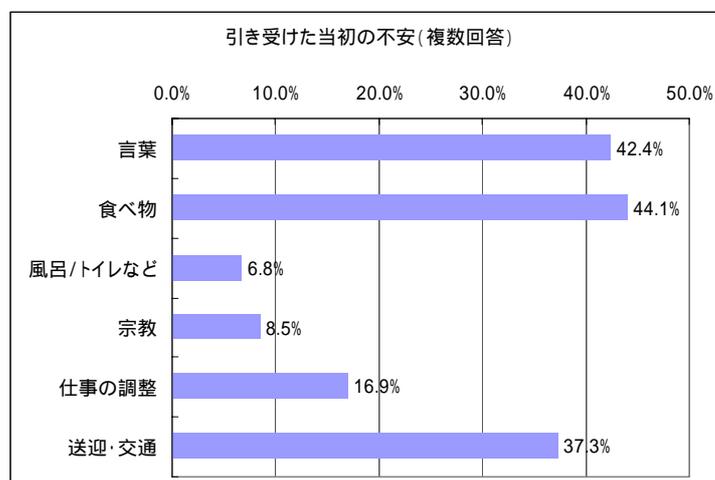
なお、この集計に用いたアンケート回収数は59票である（上田8、多摩11、取手11、水戸18、広島11）。

(2) 結果概要

ホストファミリーになったきっかけ



事前準備について



<事前に欲しかった情報・説明>

- ・ 参加者の関心事項や参加動機などの情報
- ・ 滞在中の具体的なイメージなどの経験談（“よくある質問”と回答など）
- ・ 全 HF の連絡先リスト
- ・ 参加者の日本語の理解度
途中参加の参加者の場合、その旨の特記
資料上の集合場所や時間などの情報の一致・徹底

学生の滞在中について

<一番心に残ったこと>

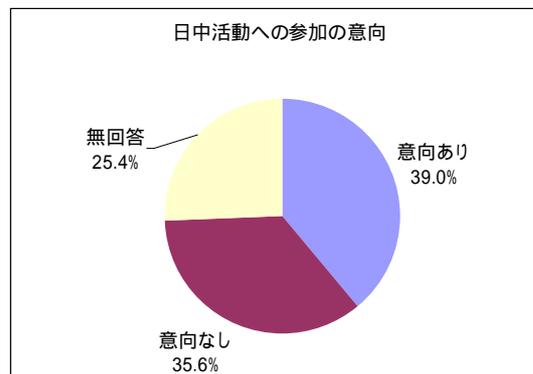
- ・ 自分や家族への参加者の気遣い
- ・ 手作りの料理、国・文化の違いに関する話
- ・ 子どもとよく遊んでくれたこと
- ・ 日本について知ろうとする積極的な態度・姿勢
- ・ ありがとうイベント

<困ったこと、苦労したこと>

- ・ 会話・コミュニケーション
- ・ 送迎（時間、交通費など）
- ・ 医者、両替
- ・ 朝早かったこと

<出来たら良かった、したかったこと>

- ・ すべてのメンバーや他のホストファミリーとの交流の機会
特にイベント日をポットラックにすれば夕食で悩まないで済む
- ・ ホストファミリーと過ごす時間の余裕
- ・ 各国料理の紹介など



ホストの経験を踏まえて

<改めて気付いたこと>

- ・ 近いところに大切な文化があること、自分がよく知らないこと

- ・ 日本のことがよく知られていること、評価が高いこと 誇り
- ・ 日本人のシャイな性格、英語力の低さ、電車や携帯のマナーなどの良くない点
- ・ 地域で外国人に紹介できる場所や要素の再発見 自分の地域に紹介できる場所などが無いこと
- ・ 各出身国に関する再認識

<考え方や家族の変化>

- ・ 家族と一緒にいる時間が増えたこと、家族で協力しようという雰囲気(特に夫の姿勢にオドロキ！)
- ・ 子どもの世界への関心、英語への関心
- ・ 日本の文化や言葉などの見直し
- ・ 自分の生活習慣や姿勢の見直し

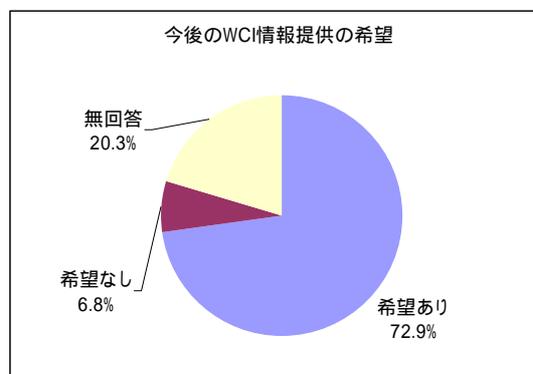
<今回の経験の活かし方>

- ・ 人のつながりを大切にしたい、参加者とも HF 同士でも地域でも継続したい
- ・ 違いの再確認(日本でも地域で違いがある)
- ・ つながりを広げたい、WCI 活動に地域で関わってくれる人を増やしたい
- ・ 英語を勉強したい、またホストしたい
- ・ 外国人を身近に感じて、今後も簡単に接することができる

ワールドキャンパスについて

<自由意見>

- ・ 別の地域で実行委員会を立ち上げたい、来てください
- ・ 学生のスケジュールが少しハード、もう少し自由時間をあげては
- ・ 学生同士が仲が良いのはいいが、もう少し HF との時間も大切に
- ・ 日本の夏は厳しそう、学校の夏休み期間にしてほしい
- ・ 参加者の参加目的など、もう少し詳しい情報がほしい
- ・ 楽しかった、また参加したい
- ・ ありがとう



参考資料

参加者リスト

	氏名	年齢	出身国	参加セッション
1	Christine Chung	20	アメリカ（韓国）	1, 2
2	Egan Gibson	18	アメリカ	1, 2
3	Janice Tsang	20	アメリカ	1, 2
4	Amanda Wallace	18	アメリカ	2
5	Jacqueline Alfano	17	アメリカ	1
6	David Leipnitz	22	ブラジル	1, 2
7	Gina Addario-Berry	18	カナダ	1, 2
8	Rita Han	20	中国	1, 2
9	Anders Schaumann	21	デンマーク	2
10	Christian Damgaard	21	デンマーク	1, 2
11	Signe Olesen	28	デンマーク	2
12	Lily Ha	25	デンマーク	1, 2
13	Ilkka Peltola	23	フィンランド	1, 2
14	Litanidara Aloysia	22	インドネシア	1
15	Amanda Soeprobo	22	インドネシア	1
16	早瀬理恵	26	日本	1, 2
17	金子弥生	18	日本	2
18	Miriam Kimani	27	ケニア	1, 2
19	Catherine Thuerig	50	スイス	2
20	Muratcan Aras	19	トルコ	2
21	Shavkatjon Ortikov	25	ウズベキスタン	1, 2
22	Anvar Samadov	24	ウズベキスタン	1, 2

地域実行委員会（代表）リスト

	都市名	受入れ組織	代表者
1	長野県上田市	ワールドキャンパス上田実行委員会	ビルレットィ
2	東京都多摩市	ワールドキャンパス多摩実行委員会	蓮池 守
3	茨城県取手市	とりでホストファミリーの会	飯村 淳子
4	茨城県水戸市	ワールドキャンパス in 水戸	高橋 明子
5	広島県広島市	ヒッポファミリークラブ西日本	神川 孝紀

スタッフリスト

	担当	氏名	備考
1	総括	西村紀公	NPO 法人理事長
2	ジェネラルマネジャー	Bob Sloat	学生リクルート担当
3	ジェネラルマネジャー	安井英人	地域対応担当
4	ツアーコーディネーター担当	野田香織	
5	プロダクション担当	Cody Permenter	
6	プロダクション担当	Henning Rodtwitt	インターン
7	教育担当	Berthalina Hernandez	
8	教育担当	Dennis Xu	インターン
9	広報担当	Guang Yeung	インターン
10	通訳（兼広報担当）	吉田有紀	インターン

協力企業・団体等

	都市名	企業・団体名
1	上田市	ワールドキャンパス上田実行委員会、 上田市、上田市教育委員会丸子地域教育事務所社会教育課社会教育係 財団法人信州音楽村、上田市丸子文化会館、長野大学、株式会社ミヤマ、 社会福祉法人まるこ福祉会 障害福祉サービス事業所とんぼハウス
2	多摩市	ワールドキャンパス多摩実行委員会、 多摩市、多摩市教育委員会、多摩市国際交流センター、東京多摩プロバスケットボールクラブ、 多摩市立東寺方小学校、関戸公民館、パルテノン多摩、新都市センターホール、 東京都立多摩桜の丘学園、中央大学ほか学生の皆さん
3	取手市	とりでホストファミリーの会、 取手市、取手市教育委員会、取手市国際交流協会、 東京芸術大学O研、PLS スマイルクラブ“ほほえみ”、株式会社新六、岡部商会、 有限会社小沼新聞店舗、取手商工会女性部、キャノン株式会社 児童合唱団サークル“ハーモニー”、山本佳代子(琴)、取手第二中学校空手部、 扇櫻会：せんおうかい(盆踊り)
4	水戸市	ワールドキャンパスIN水戸、 茨城県、茨城県警、水戸市国際交流協会、茨城県社会福祉協議会、日本原子力研 究開発機構
5	広島市	ヒッポファミリークラブ西日本、 広島市、広島市市民局国際平和推進部国際交流課、広島市水道局